令和３年度　取組報告　　**若草中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像　**生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもの育成**

取　組　目　標　**『奈良を知る　地域を知る』　－世界遺産と環境－**
～クロスボーダー若草　点から線へ、線から面へ～

【今年度の取組紹介】

今年度はコロナ禍により感染拡大防止を鑑み、地域教育協議会定例会及び定例の地域コーディネーター会議の開催を見合わせました。その中でも若草中校区のメイン事業である地域合同文化講演会は、オンライン形式に変更し実施することができました。感染が改善された時期であったのでコーディネーターの参加もあり、感染対策を行い視聴する形で行いました。その後、参加者を中心にコーディネーター会議を実施し、情報交換を行いました。

・地域合同文化講演会、コーディネーター会議

役員会を中心にコロナ禍における協議会の運営について検討をし、恒例の地域合同文化講演会についてはオンライン形式を取り入れた形で実施しました。今年度は、帝塚山大学客員教授の西山　厚先生をお招きし、「聖徳太子と達磨さんと雪丸くん」と題して生まれ育った地域奈良にちなんだお話をしていただきました。とても優しい語り口で聖徳太子のことやゆかりのある達磨寺など大変興味深いお話を拝聴しました。生徒、教職員、地域コーディネーターが共に学ぶよい機会となりました。

【今年度のまとめ】

今年度はコロナ禍における感染拡大防止を最優先し無理のない活動を行いました。例年行われている地域合同文化講演会は大人数による対面の形式を変更し、オンライン形式により実施しました。分散による視聴という形であったので感染対策にも有効であったと思います。コーディネーター会議も実施し、1回ではありましたが対面で顔をあわし、情報交換ができたのは地域同士の繋がりを継続していく意味でよかったです。

【来年度に向けて】

・コロナ禍においてできる事業を工夫をしながらすすめていきます。
・今年度同様、地域合同文化講演会、地域コーディネーター会議の開催により、コーディネーターの繋がりを継続的に深めていきます。
・地域の歴史を学んだり地域のことをよく知った人材の発掘等をすすめたりして、キャリア教育の支援に繋げていきます。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立若草中学校運営委員会**

めざす子ども像　**生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもの育成**

取　組　目　標　**学びをはぐくむ**

【今年度の取組紹介】

〇学習支援

・「中３学習会」「図書館学習」

３年生では進路実現に向けてより確かな学力をつけるために地域の方や大学生のボランティアに協力いただき中３学習会を行っています。定期テスト前の期間を中心に全学年希望者による図書館での学習会を行っています。

〇キャリア教育支援

・「ゲストティーチャー」から学ぶ

キャリア教育の一環として様々な職業の講師の先生を招き職業についての講義を受けたり、実際に職業の実習体験を行ったりしました。銀行、ホテル、ブライダル関係、写真関係､保育士、警察官など生徒たちにとってとても興味深く、将来の進路選択に向けて有意義な体験でした。また誕生学など命に関する学習についてもゲストティーチャーをお招きし講演を通じて学習することができました。

【今年度のまとめ】

今年度はコロナ禍において感染拡大防止を鑑み、学校での行事や学習体験も制限され中止となる事業が多かったです。その中でも感染対策を行いながら中３学習会やゲストティーチャーを招いての学びは実施することができました。保護者･地域の方々に学校にきていただく機会が少なく、ともに活動する場面が設定できなかったのは残念でしたが、支援事業を通じて将来に向けての学びをはぐくんでいくことができました。

【来年度に向けて】

コロナ禍において来年度もできる事業を精選し感染対策を講じながら、地域コーデーネーターをはじめ地域の方々との連携をより深め、生徒たちが将来の進路選択に向けての学びをはぐくんでいけるよう継続的な支援をしていきたいです。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立鼓阪小学校運営委員会**

めざす子ども像　**生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標　**自分たちの育った校区に誇りを持ち、その素晴らしさを校区内外に発信し、より地域のきずなを深め合えるようにする。**

【今年度の取組紹介】

今年度も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策で地域教育協議会のほとんどの事業が中止になり、実施することができませんでした。実施できたものから１つを紹介します。

・菜の花プロジェクト事業を通して

本校では、世界遺産学習・環境教育・地域交流の一環で、主に１・２年生の生活科で地域のボランティアの方々や保護者と一緒に取り組みました。

本事業の目的は、３つあります。１つ目は、児童に自身で菜の花の種まきから行い、育て、刈取り、種を採って、その種から搾取した油を東大寺に献納し灯明に使ってもらうことで、千年単位で文化財や伝統を守り、受け継いできた奈良の人々の営みや心との重なりを感じさせることです。２つ目は、菜種の油が食用やバイオ燃料（地球環境にやさしい）として使用し、油の搾りかすや菜の花は、畑の肥料となる循環型社会についても学ばせることです。３つ目は、大人（地域の方、保護者）と児童の世代間の交流や対話を促し、異なる世代との交流を通して、疑問を解決し、他者の思いを受け止めたりしながら、活動を通して「受け継ぐ」ということを体験的に理解させます。

主な活動の流れは、５月菜の花刈取り、６月脱穀と搾油、９月東大寺に献納、１０月種まき、１１月移植です。

【今年度のまとめ】

本校区は、世界遺産に囲まれた素晴らしい環境の中にあり、様々な行事・伝統等、地域が守り続けてきた事柄が多いです。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業ができるかどうか心配ではありました。しかし、何とか、子どもたちの為に、「ひと」「もの」「こと」との出会いを演出する事業が実施でき、生まれ育った地域に誇りを持ち、地域の方々とのつながりが深まったように思います。地域の方々との「であい」の演出を今後も大切に、この活動を進めていきたいです。

【来年度に向けて】

地域の「ひと」「もの」「こと」と出会い、生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもを育てる取組を、コロナ禍に対応した形に変えながら、進めていきたいです。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立佐保小学校運営委員会**

めざす子ども像　**生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標　**佐保に生きる（地域と共に）**

【今年度の取組紹介】

自然環境学習～ビオトープやバタフライガーデンを通して～

11 年目を迎えるビオトープでの自然環境学習では、引き続き NPO 法人や専門家の指導を受けながら、子ども達が佐保の自然や環境から課題を見つけ、自らの問題として捉えながら、一人一人が自分にできることを考え、実践していくこと学んでいます。今年度は、バタフライガーデンに植えた苗木やビオトープ周辺の樹木に肥料をやったり、ゲストティーチャーから植物や自然環境について大切さを聞きとったりしながら学びを深めました。

地域連携活動～マーチングバンドの演奏～

コロナ禍以前は、地域や保護者の協力を得ながら、講師や教員の指導の下、イベントや学校行事・PTA 行事の場で日頃の練習の成果を披露し、地域とのつながりや地域の活性化にも貢献していました。本校のマーチングバンドの活動は、校区にとっての伝統であり、守り受け継ぐ心が子ども達にも根付いています。しかし、昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響で、発表の場はもとより練習時間の確保もままなりませんでした。けれども、練習場所を分散したりマスクを着用して練習できるパーカッションを多く取り入れたりしながら、今年度も伝統を守るべく練習を続けました。

【今年度のまとめ】

自然環境学習では、バタフライガーデンに植えた苗木やビオトープ周辺の樹木に肥料をやったり、ゲストティーチャーから植物や自然環境について大切さを聞きとったりしながら学びを深めました。

地域連携活動（マーチングバンド）は、地域の方と触れ合う発表の場がありませんでしたが、臥薪嘗胆の思いで練習を続け、来年度につなげることができました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、今年度実施できなかった活動も実施できるような知恵を出し合い、活動を充実させていきます。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立鼓阪北小学校運営委員会**

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標　**地域と触れ合い、その中で「ひと・もの・こと」との豊かな体験活動を通し、学び合い支え合いながら主体的に学ぶ児童を育てる。**

【今年度の取組紹介】

今年度もコロナウイルス感染拡大防止のため、様々な事業の中止を余儀なくされました。本校の特色の一つである「菜の花プロジェクト」は、感染防止対策をしながら、ボランティアの方々の協力のもと取組を行うことができました。

本校では、①生活科や総合的な学習の時間を中心とした多様な体験や多くの方々との出会いの場の設定、②図書室や学年園を中心とした学習環境整備を進めています。新興住宅地が多くを占める本校区において、これらの学習を通して児童に地域への理解を深め、愛着や誇りを持たせることを主眼としています。

「菜の花プロジェクト」は、世界遺産学習、環境教育へと体系的につなぎ、魅力ある総合的な学習の時間を構築し、特色ある学校づくりをめざしています。今年も、とれた菜種油をボランティアの方々とともに、５年生が春日大社と東大寺に灯明油として届けました。子どもたちにとって大変貴重な機会を与えていただくことができました。

５年生

油絞りのため脱穀作業

４年生

菜の花の間引き作業

菜種油の奉納

【今年度のまとめ】

今年度も地域交流の機会をもつことが難しく、活動を中止した事業もありましたが、「菜の花プロジェクト」を中心に、安全見守り活動、各活動を深化・発展させてきました。

今年度も「お話したっきゅうびん」さんが朝の読書の時間（毎月２回）に、子どもたちの心に響く素敵なお話を届けてくれました。「今日はお話しあるから楽しみや。」「先生、この前読んでもらった〇〇の本ありますか？」と読書意欲へ繋がっています。

そして、今年度は見守り安全の方々に感謝の気持ちを伝える会をもちました。毎日、優しく声をかけていただいていることを嬉しく思っていることや、元気を頂き勉強を頑張ろうと思ったこと、自分たちの安全を見守って頂いていることへの感謝の気持ちを綴った手紙を受け取っていただきました。

【来年度に向けて】

多くの方にご協力いただき安全で安心な学校生活を送ることができています。当たり前の裏にある多くの方々の助力を忘れず、常に感謝の気持ちをもち続けたいと思います。今年度同様、感染対策を講じ、工夫しながら活動を行っていきます。地域との絆、ふれあいを大切に、地域の方々から教えて頂いたことを学習活動に生かし、深い学びへとつなげていきます。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立佐保幼稚園運営委員会**

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

地域の自然環境や様々な人との関わりを活かした体験を構築し、
豊かな心とたくましい体を培い、
佐保幼稚園で学んだことを誇れる子供の育成。

【今年度の取組紹介】

○　木工であそぼう（わくわく学習支援事業）

既成の物に囲まれて生活している子ども達にとって、木の温もりを感じ金槌等を使って作る楽しさを味わってほしいと思い、毎年木工遊びを実施しています。しかし、担任だけでは子どものアイデアやイメージに沿うことがなかなかできにくいことから地域にお住いの設計士や大工さんをゲストティーチャーに迎えました。子ども達は事前に自分の作りたい物を絵（設計図）や文字で表し、当日は設計図を通して自分の思いを言葉で伝えたり、アドバイスや手助けを受けたりしながら形にしていくことができ、達成感や自己肯定感を味わうことができました。また、工具の扱い方や木や森の大切さも教えてもらい、環境教育やキャリア教育にもつながりました。作品を展示したところ、保護者や地域の方から貴重な経験ができたことに、とてもよい評価をいただきました。

○　子育てひろばさほ（未就園児保育事業）

民生委員のご協力をいただき３歳児は月２回、1・2歳児は月１回、未就園児保育を実施しています。親子でのふれあい遊び、絵画製作、サーキット遊び等を楽しみながら幼稚園に慣れ、家族以外の人と関わる経験にもなっています。また、保護者同士交流や子育てについての相談等、地域の子育てセンターとしての役割も果たすことができました。

【今年度のまとめ】

・今年度、事業内容を「佐保を知る」が更に深まるよう変更した部分もありましたが、感染症の影響で人と関わることやふれ合うことができず、中止せざるを得なかった取組もありました。そのたびに職員と地域の方で取組の方法を検討したり、事業を見直したりしてきました。園外保育では、般若寺や植村牧場まで歩き、地域の自然環境や施設を知り、地域に関心をもつこともできました。

【来年度に向けて】

・今年度の事業を見直し、子どもが興味や関心をもった取組は更に深められるよう、地域の方と内容を検討していきたいと思います。特に来年度は創立70周年、佐保小学校は100周年でもあるので、より地域を知り興味や関心がもてるよう、機会を逃さず取り組んでいきたいと思います。

・幼稚園という保護者との関わりがもちやすい環境でもあるので、取組に対する子どもの姿を通して保護者への啓発も続けていきたいと思います。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立若草こども園運営委員会**

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

地域や小学校との連携を大切にし、様々な人とのふれあいや体験活動を通して豊かな心と体を育む。

【今年度の取組紹介】

○伝統文化ふれあい事業では、和太鼓宝亀殿の方々を招いて和太鼓の演奏を聞かせていただいた後、バチの持ち方、良い音の出るたたき方など和太鼓の指導をしていただきました。力強い和太鼓の音色を全身で感じ、友達と一緒に合わせる心地よさを味わうことができ、伝統文化を体験できる貴重な機会となりました。

○畑づくり事業では、畑の先生として地域の方に来ていただき、苗の植え方を教えてもらいました。夏には水やりや草引きなどの世話をし、秋になると大きく育ったサツマイモを収穫することができました。畑の土や苗の生長、野菜に触れることで収穫の喜びと食への感謝など豊かな心の育ちと共に、水やり・草引き・虫探しなど世話や発見をする喜びは貴重な体験となりました。

○おはなしの会事業では「おはなしの会」の方々に来ていただき絵本の読み聞かせや素話、手遊び、パネルシアターなど多彩なバリエーションでお話を聞かせていただきました。昔話や季節の話など子ども達は毎回楽しみにしていて、集中して話を聞く力に繋がっています。

【今年度のまとめ】

コロナ禍で回数や人数の制限を行いながら事業を進めてきましたが、熱心で温かい地域の方々に支えていただき、様々な生活体験をすることができました。畑づくり事業では、地域の方からの丁寧な指導を通して野菜の生長や収穫の喜びなど様々なことを教えていただいたことは、学び多い体験となりました。また、伝統文化ふれあい事業では、宝亀殿の方の演奏を聞くことで、力強い和太鼓の音色を全身で感じることができ、実際に叩き方を指導していただくことで、伝統文化を体験することができました。様々な体験をすることが、豊かな心の育ちに繋がりました。

【来年度に向けて】

コロナ禍でも可能な活動方法を模索しながら、これまでの事業を継続し、様々な体験を通して豊かな心と夢を育むために、園・家庭・地域の連携を深め、環境構成の工夫や保育内容の充実を図り、笑顔あふれるこども園をめざしていきたいと思います。地域の方々の力をお借りしながら、地域に開かれたこども園としての役割を果たしていきたいと思います。